

行雲流水

No. 2 1 令和3年4月12日発行

「喜働」こそが出発点

校長 寒河江 正人

以前、株式会社「でん六」代表取締役社長、鈴木 隆一^{りゅういち}さんの講演を拝聴した。

私たちがよく知っている「でん六豆」は、昭和31年に誕生したそうだ。

「でん、でん、でんろくまめ、うまいまめ。」の歌は、昭和39年に生まれたとのこと。

創業から3代目の鈴木隆一さんが語った「喜働^{きどう}」という言葉と考え方が印象に残った。

この紙面をもって、みなさんにその一部をご紹介します。

「喜働^{きどう}」とは、「うれしい、ありがたい、お役に立ちたい」という心で喜んで働くこと。

「働くこと」は、人生の最も輝かしい時代に、
一日の最も貴重な時間を使って行う、
人生で最も大切な活動である。

「働くこと」そのものが、大きな喜びであること。

自分の仕事を天職と信じ、真心を尽くして働くこと。

「働くこと」が喜びだから、自然に技術が向上し、生産量・生産性もアップする。

「ご恩」を感じ、「感謝」する心が、「喜働」を推進するエンジンである。

「喜働」に燃えるには、自分の「わがまま」に気付くことが第一段階である。

「わがまま」とは、不安・恐れ・好き嫌い・苦手意識・怠け心・締め切り病。

「わがまま」というブレーキをかけているから、無理に強くアクセルを踏まないと進まない。だから、すごく苦しい。

「わがまま」というブレーキをかけなければ、アクセルは軽く踏んでも進む。
ぐずぐずせず、ただ決心をして、あっさりとするのみ。積極大胆に進め！！

結びに一つ、鈴木隆一さんは、「翌朝のスケジュール」を前日の夜のうちにつくっておく。
朝起きるのは、だれでもつらい。でも、一日は、明るい気持ちでスタートしたいものだ。
だから、ポジティブな思考で起き上がれるようにする「動機づけ」を決めておくそうだ。
これも、大切な一日を前向きに「喜働」しようとする「賢い知恵」なのだなあと感じた。